

ガンビアにおけるB型肝炎母子感染予防のための医療体制構築

- ① **現地の状況**: ガンビア保健省内の国立肝炎プログラムでは、B型肝炎の母子感染予防プログラムが喫緊の課題となっており、2025年以降、従来実施されてきたHIVや梅毒の妊婦検診スクリーニングに加えて、B型肝炎スクリーニングを段階的に導入する予定である。同プログラムは、B型肝炎陽性妊婦のうち母子感染リスクが高い妊婦を特定する上で極めて有用なHBcrAg-RDTに関心を示しており、現場での導入を望む声強い。
- ② **事業目的**: ガンビアの医療従事者のHBV感染者撲滅におけるHBV母子感染予防の重要性の理解浸透; 母子感染予防におけるHBcrAg-RDTの役割の理解および検査技術習得者の育成
- ③ **事業の概要**: 富士レビオ、熊本大学、JIHS、ロンドン・インペリアルカレッジ、マルセイユINSERM、ガンビア国立肝炎プログラム、ガンビア医療研究評議会の協力によりワークショップやハンズオン・トレーニングを実施、知識と技術を移転
- ④ **期待される成果とその後の波及効果**: 医療従事者の意識向上、診断モデルの構築、HBVエリミネーションへの貢献

